



**小学校5年生の国語教科書(東京書籍)に  
〈弱いロボット〉を題材とする教材文が掲載されました**

— 熊本市現代美術館の展覧会にて〈弱いロボット〉を展示します。 —

**【概要】**

本年度、新たに改訂された小学校5年生国語科用 文部科学省検定教科書『新しい国語 五』(東京書籍 発行)の教材文として、本学 情報・知能工学系の岡田美智男教授らの〈弱いロボット〉を題材とした説明文(岡田美智男 文、「弱いロボット」だからできること)が掲載されました。

『新しい国語 五』(東京書籍)を採用した全国の小学校で、本年4月より4年間の予定で使用されます。

**教科書：**

小学校5年生国語科用 文部科学省検定教科書『新しい国語 五』

**発行者：**

東京書籍株式会社

**掲載文章：**

岡田美智男 文、「弱いロボット」だからできること、pp.216-221

**使用期間：**

令和2年度から5年度までの4年間

**【 〈弱いロボット〉の研究の狙い 】**

近年、介護現場や商業施設、一般家庭などで活躍するロボットが登場し、その高機能化にむけた研究開発も進んでいます。しかしロボットは様々な利便性をもたらす一方で、人の身体機能を退行させたり、「もっと静かに、もっと手際よく！」と人の傲慢さを引き出してしまうなど、その負の側面も懸念されているところです。

本学 情報・知能工学系 岡田美智男教授(本学 人間・ロボット共生リサーチセンター長)らの研究グループでは、人とロボットとの共生社会の実現を目指して、子どもたちの手助けを上手に引き出しながら、ゴミと一緒に拾い集める〈ゴミ箱ロボット〉などの、〈弱いロボット〉の研究を進めてきました。

人もロボットも、いつも強がるばかりでなく、その弱さや不完全なところを適度に開示しあうことで、お互いの弱いところを補いながら、その強みを引き出しあうような関係を生み出せることを、様々な「弱いロボット」を構築しながら検証しています。

今回の国語教科書の改訂にあたり、「テクノロジーと私たちとの共存を考えるうえで価値のある題材」として評価され、選定されたものです。

【 〈弱いロボット〉の展示予定など 】

本学で開発した以下の6つのタイプの〈弱いロボット〉は、熊本市現代美術館の展覧会「ライフ 生きることは、表現すること 現代アートから弱いロボットまで、11組の表現者と描く私たちの未来」の一部として展示する予定です。

場所：〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 びふれす熊日会館 3階

熊本市現代美術館(CAMK) TEL: 096-278-7500 <https://www.camk.jp/>

※現在、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下、開催日時が未確定です。上記HPにて、随時状況を更新します。

問合せ先：学芸員 坂本颯子様

趣旨： 超高齢化社会を迎える現代の日本においては、誰もがいずれ、身体的・精神的な弱者になり、少数派になり得ます。それまで普通、多数派だと思っていた自分が、そういった場面に直面する時に、私たちは、どのような態度や生き方をしていくのでしょうか？ 本展では、障がいや加齢、そこから生まれる困難さと向き合い、またそこに注目しながら、日々制作を続ける、11組の現代アーティストからロボット研究者、そして、それを支える人までを含めてご紹介します。

展示予定のロボット：



(1) ゴミ箱ロボット



(2) アイ・ボーンズ



(3) トーキング・アリー



(4) トーキング・ボーンズ



(5) ペラット



(6) トウフ

本件に関する連絡先  
広報担当：総務課広報係 前田・高柳・古橋 TEL:0532-44-6506